

実践報告

次世代育成公開講座参加者の学び

—企画運営の立場から—

加藤千恵子¹⁾*、齋藤千秋¹⁾、結城佳子¹⁾、中島泰葉¹⁾、
刀禰聡美²⁾、松田慎司²⁾

¹⁾ 名寄市立大学保健福祉学部看護学科、²⁾ 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター

キーワード：次世代育成、公開講座、企画運営、学び

はじめに

近年、少子化・晩婚化が進んでいる。家族計画協会でも35歳以下の妊孕性の低下から性教育に「産み時」を周知するようになってきており、単なる避妊や感染症予防だけの教育ではなく、まさに、生きるための教育なのだという位置づけをしている。

今回、北海道次世代育成事業としての企画を受け、筆者は、札幌などの大都市では、見たい映画が上映され、今回、上映した「生まれる」も札幌圏では、その続きの最新作も、上映されていることから、ぜひ過疎地域で過ごしている次世代を担う方たちにも見ていただきたいという動機を持ち、今回の企画に至った。

スタッフは、皆、多忙な中、企画に至る過程での広報周知や会場の在り方、駐車場の案内等、協力して、平成28年11月19日(土曜日)14:00から、第一部「生まれる」という映画を321教室、322教室で同時上映(写真1、2)し、その後、第二部321教室で山本文子先生の育児支援に関わる講演を90分実施することができた。

1. 結果および考察

参加者は、150人であった(子どもの参加24人を除く)。アンケートを配布し、終了後回収した。アンケートの回収率は、78.0%(117/150)であった。

1) 参加者の背景

第一部のみ参加した者50.4%(59/117)、第二部のみ参加した者0.9%(1/117)、両方を受講した者48.7%(57/117)であった(図1)。性別は男性7.1%(8/112)、女性92.9%(104/112)であった(図1)。

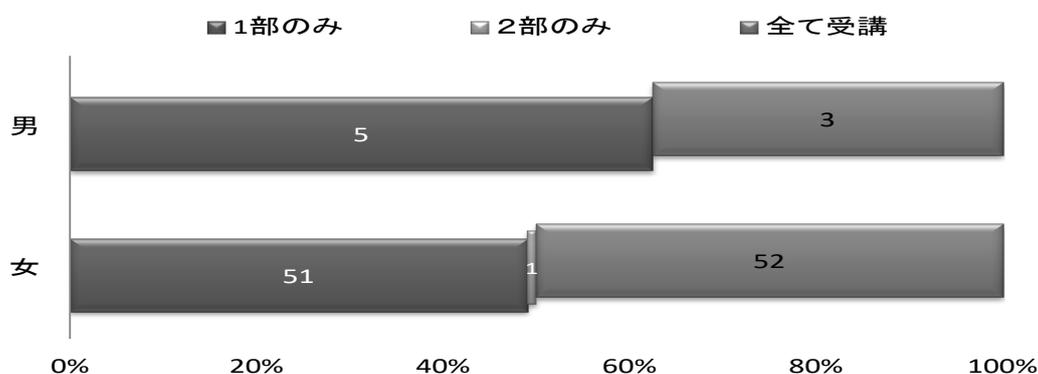


図1 参加者の性別と参加状況

参加者の年代は、10代7.8% (9/116)、20代62.1% (72/116)、30代13.8% (16/116)、40代6.9% (8/116)、50代7.8% (9/116)、60代1.7% (2/116) であった (図2)。参加者のうち、大学生の内訳は、1学年11.3% (8/71)、2学年70.4% (50/71)、3学年2.8% (2/71)、4学年15.5% (11/71) であった (図3)。

参加者の所属は、大学生61.7% (71/115)、教育関係9.4% (11/115)、保育医療福祉関係7.0% (8/115)、主婦13.0% (15/115)、自営業1.7% (2/115)、会社員1.7% (2/115)、公務員1.7% (2/115)、その他3.5% (4/115) であった (図4)。

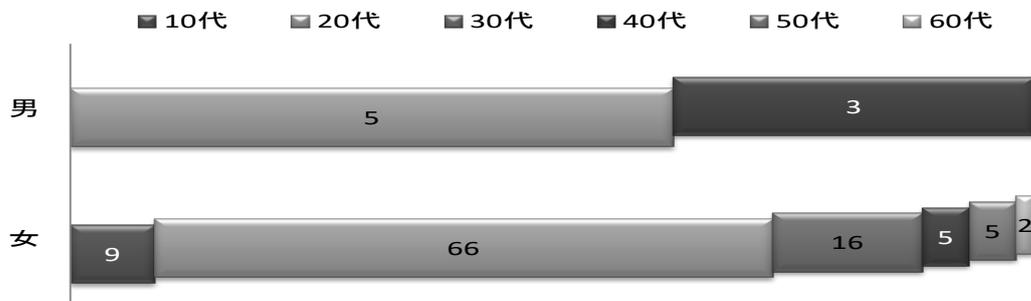


図2 参加者の性別と年代



図3 性別と大学生の学年

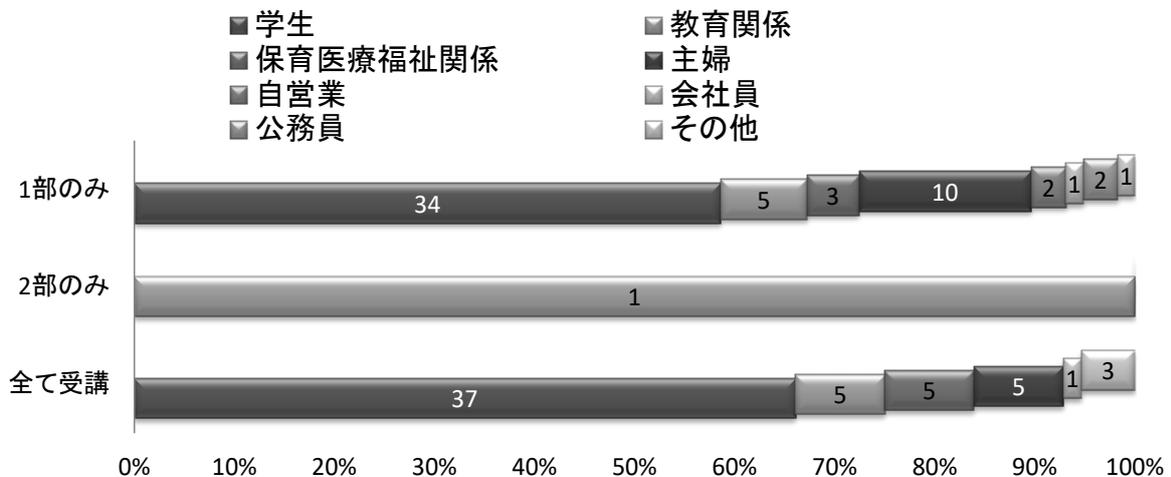


図4 参加状況と所属

2) 広報について

道からは各近隣市町村への案内がされ、コミュニティセンターから近隣教育機関や子育て支援に関連した施設にチラシなどを配布し周知した。アンケート結果から、口コミによるもの 56.4% (66/117)、ちらしやポスターによるもの 36.8% (43/117)、その他 (講義のため) 5.1% (6/117)、HP 1.7% (2/117) の順で知ったとしており、広報の効果が出ていた (図 5)。

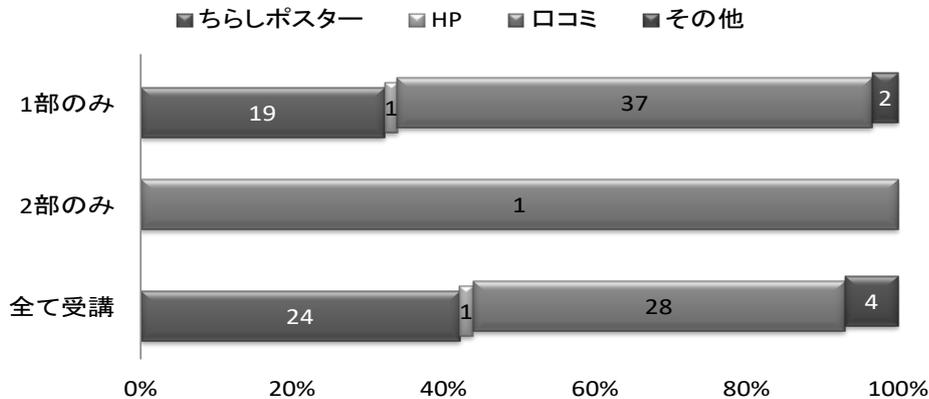


図 5 参加状況と参加に至る広報内容

3) 参加動機

テーマに関心があった者は 41.0% (48/117)、映画に関心があった者 76.9 (90/117)、講演に関心があった者は 35.0% (41/117)、その他 15.4% (18/117) であった。

部分受講に比べ、全て受講したもののほうが講演に対する参加動機の「講演に対する関心があった」とした割合が有意に高かった (図 6)。

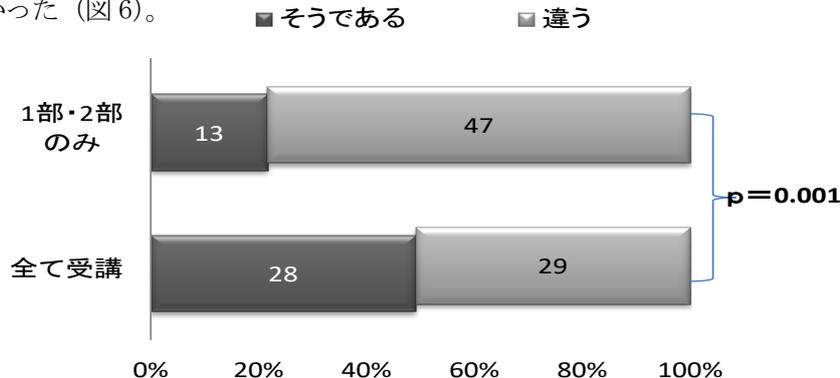


図 6 参加状況 2 群と「3.講演に関心があった」参加動機の関係

4) 日程について

「適切である」とした者が 48.2% (55/114)、「だいたい適切」とした者が 33.3% (38/114)、「あまり適切でない」とした者は 16.7% (19/114)、「適切でない」とした者は 1.7% (2/114) であった。

適切でないとした者の概要は、実習前であり余裕がないとする内容が主であった。

2 学年は、この後に基礎実習を控えており、課題が多く出されていたことが背景にある。しかし、2 学年については、講義の初めに予定を示しており、急に決めたものではないこと、また、学生の全てが負担感を示していないことから、次世代を担う学生にみていただきたい内容であることも鑑み、周知の徹底と意識改革の必要性を感じた。この時期でなければ学ぶことができない、社会に出る前に考え方として触れてほしい内容であるだけに、目先の学生生活に振り回されない視野の持ち方ができる思考へと導く学生生活に対する支援が必要と考える。準備性を高めるとともに、自分に何が必要とされているのか、何を身につける必要があるのかを考え行動できる人材育成をしていきたいと考える。

5) 企画内容の評価

(1) 映画に関して

「とても良かった」83.6% (92/110)、「良かった」15.5% (17/110)、「普通」0.9% (1/110)であった。
性別での映画の評価を図7に示す。

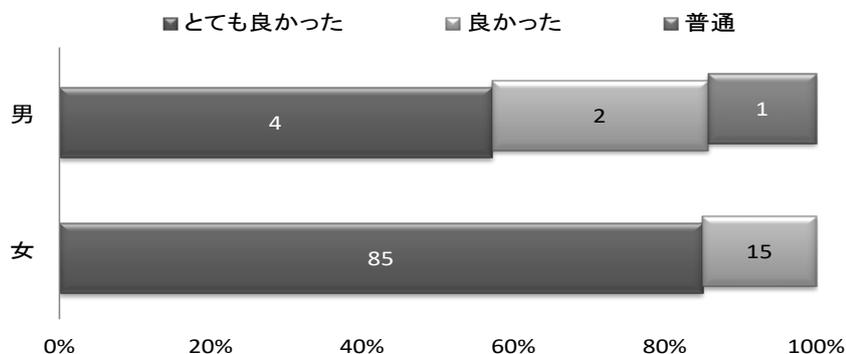


図7 性別と映画の評価

(2) 講演内容に関して

「とても良かった」96.2% (50/52)、「良かった」3.8% (2/52)であった。

(3) 今回の企画内容の活用度

「とても活用できる」79.4% (81/102)、「少し活用できる」20.6% (21/102)であった。

また、一部分受講したものに比べ、全て受講したもののほうが「とても活用できる」とした割合が有意に高かった (図8)。

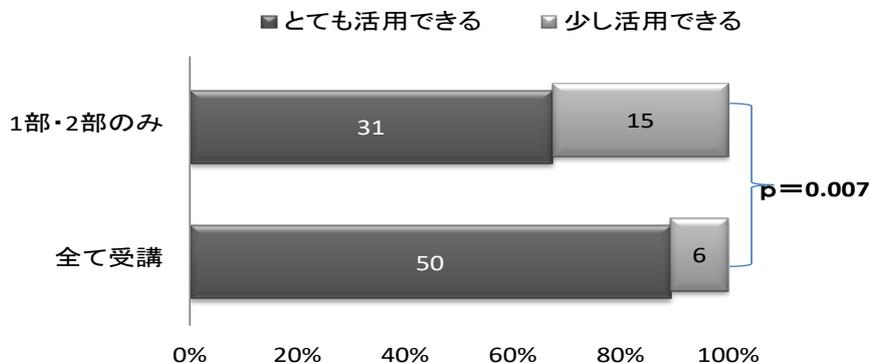


図8 参加状況2群と活用度

6) 将来、親になりたいかとその理由

(1) 将来、親になりたい

「とてもそう思う」61.2% (60/98)、「思う」24.5% (24/98)、「どちらでもない・わからない」10.2% (10/98)、「あまり思わない」4.1% (4/98)であった。

(2) (1)「将来、親になりたい」の理由

「将来、親になりたい」の肯定的理由は、好きな人と暮らすとした者が、44.0% (37/84)、赤ちゃんが欲しいと希望した者が75.0% (63/84)、当たり前とした者が1.2% (1/84)、家庭を持つ38.1% (32/84)、親のように生きる9.5% (8/84)、経済的に余裕が出る1.2% (1/84)、一人では寂しい9.5% (8/84)であった。

「将来、親になりたい」の否定的理由は、自由でなくなる 35.7% (5/14)、面倒である 21.4% (3/14)、お金を自由に使えない 14.3% (2/14)、夢は大切である 7.1% (1/14)、責任が重い 21.4% (3/14)、親になりたくない 7.1% (1/14)、その他 35.7% (5/14) であった。

7) 子育てイメージ

子育てイメージは、楽しい 56.4% (62/110)、優しい 14.5% (16/110)、暖かい 43.6% (48/110)、難しい 33.6% (37/110)、つらい 7.3% (8/110)、不安 20.0% (22/110)、忍耐 21.8% (24/110)、義務 2.7% (3/110)、責任 49.1% (54/110)、喜び 47.3% (52/110) であった。

8) 子の生育で大切なもの

子の生育に大切なものは、子への愛情 86.0% (98/114)、親の生き方 21.9% (25/114)、夫婦の協力 67.5% (77/114)、祖父母の愛情 6.1% (7/114)、気持ちに通じる友達 11.4% (13/114)、安心できる場所や自然 14.9% (17/114)、ゆとりある学校生活 6.1% (7/114)、地域の思いやり 7.0% (8/114) 相談できる大人がいる 12.3% (14/114)、ゆとりある住宅 0.9% (1/114)、安定した収入 22.8% (26/114)、子育てに理解がある職場 14.0% (16/114)、保育の充実 9.6% (11/114)、子育て支援サービス 8.8% (10/114)、子育て支援の費用助成 3.5% (4/114)、その他 1.8% (2/113) であった。

一部分受講したものに比べ、全て受講したもののほうが、子の生育に大切な「子育てに理解のある職場」、「子育て支援サービス」とした割合が有意に高かった (図 9. 10)。

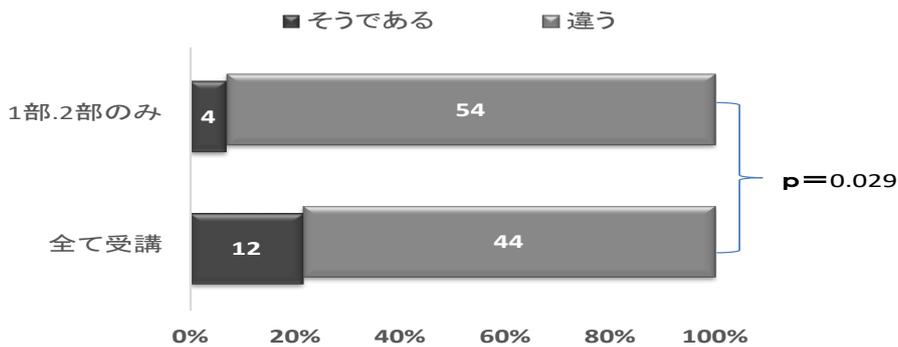


図 9 子の生育に大切な「子育てに理解のある職場」と参加状況 2 群

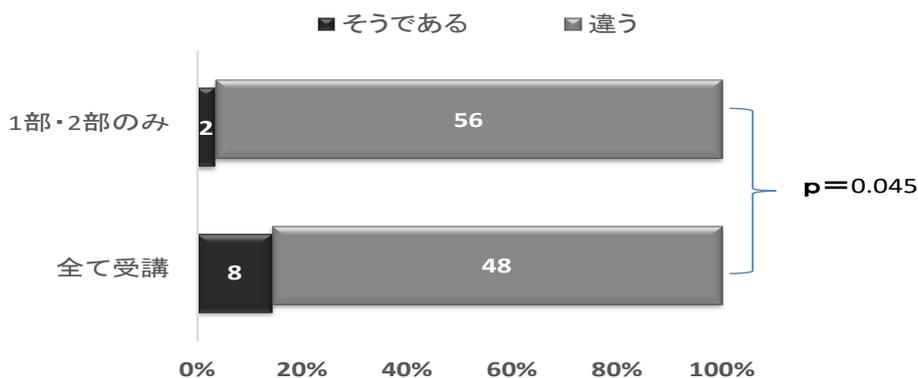


図 10 子の生育に大切な「子育て支援サービス」と参加状況 2 群

9) この講座で、ライフデザインのイメージはできたのか

イメージできた 52.9% (55/104)、少しイメージできた 45.2% (47/104)、あまりイメージできない 1.0% (1/104)、全くイメージできない 1.0% (1/104) であった。

10) 今後の取り組み

このままで継続してほしい 96.4% (107/111)、内容を変更して継続してほしい 3.6% (4/111) であった。

全部受講した者と一部受講した者での差に関しては、明らかにこの講座で「何かを得よう」という意欲の差が影響していることが示唆された。

11) 感想からの質的分析

(1) 映画から；コード「126」、サブカテゴリ (85)、カテゴリ《39》、コアカテゴリ【10】に分類できた。表1にカテゴリとコアカテゴリを示す。各事例の人生から、人とのつながりを考え、実感し感動していた。

表1 映画の感想

カテゴリ《39》	コアカテゴリ【10】	
妊娠、出産について学び、 考える機会(8)	考える機会(45)	
命や生は 奇跡 であり、健康は 当たり前 ではない(8)		
様々な夫婦の事例から、家族の考えを知り、 考える機会(7)		
命、家族について 考える機会(6)		
命や生の 尊さ素晴らしさ を知る(4)		
リフレームの機会；生き方次第、前向き、転換、変化(4)		
色々 考えさせる 内容の部分がある(3)		
産む、産まないの選択(3)		
子、自分、親の 在り方 について 考える機会(2)		
妊娠出産は不安、悲しみ、苦しみ、喜び、あたたかい気持ちなどの 感情や思い を 実感 した(10)		実感(31)
困難を乗り越え、親の成長過程 を見てその意味を感じる(9)		
人のつながりに愛情を感じた		
現実の話は リアルさ を 実感(5)		
妊娠・出産の 大変さ を 実感(3)		
母親の すごさ を 実感		
生まれる喜びや命の大切さを 実感		
生まれてくることは スゴイ と 実感		
命が生まれる時は、どの立場を見ても感動で、この映画を真剣に見ている子の姿にも 感動(11)	感動(23)	
お腹の中に「子どもが宿った時点で、うまれる」という言葉に納得し、 感動(4)		
泣く という感情の表出(3)		
医師の手紙に 感動(2)		
子は愛されて生まれてくることに 感動		
それぞれの命の 在り方 に 感動		
お母さん達の 強さ や愛情に 感動		
見たかった、 素敵 な映画で視聴を勧めたい(6)		評価；素敵、見たい、見せたい、良い(7)
胎児、出生時の記憶の内容が良い		
どんな体験も乗り越え、倖せであることが 大事 、 ステキな笑顔 が良い(3)		評価；倖せが大事、笑顔が良い(3)
捉え方の違いが面白い	評価；おもしろい；様々な視点、捉え方、誕生の形(3)	
産後の誕生の形		
色々な視点でうまれるを見た	親や子に対する感謝(5)	
自分に振り返り、生まれてきたこと、親に 感謝 、親に思いを馳せる(4)		
子が生まれたことに 感謝	出産経過を知る(3)	
出産を見ることで理解が進む(2)		
自分の生まれた経過がわかる	気持ちを知る(3)	
家族の子に対する気持ちを 知る(2)		
様々な思いの中で、赤ちゃんは生まれる	課題；ノーマルも加える、産めない人がいる、死についても深める(3)	
事例は ノーマル なものもあるとよい		
産めない女性もいる		
死の部分も掘り下げたい		

(2) 講演会から；コード「94」、サブカテゴリ〈85〉、カテゴリ《55》、コアカテゴリ【20】に分類できた。表2にカテゴリとコアカテゴリを示す。

講師と講演内容から、本音で語る姿勢とその内容に感銘を受け、自分の人生を振り返り、親との関係、性教育、生教育、子育てについて考えながら、感情を動かしながら、生きる元気、勇気や癒しを得ていた。

表2 講演会の感想

カテゴリ《55》	コアカテゴリ【20】
ボリシーのある言葉・本音は心に響く(5)	言葉は 本音 でストレートに 心に響く (12)
本音は 勇気 がある	
言葉に 重み がある	
心に残る 良い言葉 (3)	
はっきりとした言葉に 衝撃 (2)	
面白い(2)	講演の内容 (面白い、新鮮、興味深い、魅力ある、勉強になる、印象的、大切なこと、わかりやすい、共感しやすい、参考になった、生きる上で大切なこと)の 評価 (10)
新鮮・面白い	
興味深い 内容	
ひきつけられる話	
勉強になる話	
印象的・大切なこと	
体験談はわかりやすく共感しやすい	
参考になった	
生きる上で大切なこと	
自分の考えを貫き自分らしい 生き方 を考える 機会 となる(5)	
性・性交の意味 を考える 機会 になった(3)	
泣いたり笑ったり楽しい話に 元気 をもらった(2)	泣いたり笑ったり、 感情 を表出し 生きる力・勇気・元気 を得て、心が軽くなった(8)
子育てに 勇気 がわく	
生きる力をいただいた	
認められた気がして、心が軽くなった	
心の琴線に届く 内容 で涙が止まらない	
泣く 感情 の表出(2)	感動 (生まれること、すばらしさ、あたたかい)(7)
感動(4)	
素晴らしい 感動	
生まれるってすごい 感動	
命はあたたかい 感動	講師は強くて、パワー がある、かっこいい 女性 (6)
講師の バイタリティ、パワー に圧倒(5)	
強くてかっこいい 女性	
親子のぬくもりの大切さがわかり、これからの人生に役立つ(3)	親との関係の回顧と強化・ぬくもりの大切さ (6)
親と 良い関係 でいたい	
親からもらった 愛 を自覚し親を支える	
貴重な話が 動機 となり親へ連絡したい	
性・性教育の考え方が 変化・改め (恥ずかしくない)(3)	性教育は生きるための教育で必要性を理解し、性・性教育の考え方が 変化・改め (恥ずかしくない)(5)
性教育は 生きるための教育	
どうして 小学生 の時から性教育が必要かを感じることができた	
伝える・教える(2)	性の大切さを しっかり伝える真剣な姿勢 が素敵(4)
伝えようとする姿がわかり 真剣 に聞く	
伝えることは 素敵 なこと	
感謝(4)	感謝 (4)
自分が産まれたときの 両親の愛情 振り返りの 機会	
親に対する 考え の 変化 と 感謝 (2)	親に対する考え方 、振り返り、 変化 と 感謝 、やり直しの 希望 (4)
親子関係の やり直し の 希望	
話が聞けて、参加してよかった(3)	参加意義 の 自覚 (3)
聴けなくて 残念 、次回聴く(3)	
助産師になりたい(3)	助産師志望 (3)
いい 家族 に生まれた	
自己の 自覚	振り返りと 幸せ の 自覚 (3)
自分の 生い立ち の振り返りと 幸せ の 自覚	
今を大切に 生きる	今を大切に、できることを 一生懸命 やりたい 決意 (2)
何ができることを 一生懸命 やりたい	
意欲:講師のところに ツアー 希望	講師との 再会 希望(2)
大人になってから講師と 会いたい 希望	
父親もが んば っている	父親としての 頑張 りのPR
子育ては 楽しい	
子育て 支援 の仕事をしている自分は 幸せ 者	子育ての 楽しさ
	自己の 職業 の 自認

2. 結語

- 1) この講座で、ライフデザインのイメージづくりができた者は52.9% (55/104)、少しできた者は45.2% (47/104) であり、講座の目的は達成できた。
- 2) 本企画で、考え、振り替える機会となり、参加者は感情を表出させながら癒しと勇気をもたらす機会となっており、まさしくエネルギーの充電ができる場となった。
- 3) 講座を全て受講した者と一部受講した者で、関心の高さに差があり、学生に関しては、長期的な学習展望を持ち、興味関心を持った内容に対する積極的な取組姿勢や準備性を高めた行動を期待したい。また、自分に何が必要とされているのか、何を身につける必要があるのかを考え行動できる人材育成をしていきたいと考える。
- 4) 今後も、次世代育成に関連し対象のニーズを把握し、その期待に副う内容の企画・運営に努力し、機会づくりに邁進したい。



写真1 321 教室会場



写真2 322 教室 ママさん会場

参考文献

- 1) 武井麻子：感情と看護，医学書院，2001.3
- 2) ドミニク・モイジ（櫻井祐子訳）：「感情」の地政学，早川書房，2010.3
- 3) パム・スミス（武井麻子、前田泰樹監訳）感情労働としての看護，ゆみる出版，2000.12
- 4) リフレッシュ*ママクラス実践マニュアル～生き生きと生きる力、育む力を支える～東日本大震災被災者支援事業，2015.12